



石神井中だより

成果を積み上げる

先月10月16日(月)の合唱コンクールには多くの皆様にお越しいただきありがとうございました。生徒たちが10月7日(土)の公開リハーサルから僅か1週間で、大きく成長した姿をご覧いただけたことと思います。生徒たちは、考えながら・話し合いながら・工夫しながらチャレンジを繰り返し成長していきます。この日々の体験を積み上げていった姿を3年生が見事に態度で見せてくれました。先輩が自分たちの姿で後輩を導くことができている石中は素晴らしい学校だと感じています。

今年度の合唱コンクールにおいて中心的役割を担った生徒代表、教員代表の感想を紹介します。

合唱コンクール実行委員長より

合唱コンクールお疲れ様でした。クラスをまとめて努力し続けてくれた実行委員、一緒にこの行事を作り上げてきた生徒の皆さん、見守ってくれた保護者の皆様、本当にありがとうございました。皆さんにとって今回の合唱コンクールはどんなものになりましたか。私は一つの目標に向かって頑張ることの楽しさを学びました。今までの私は、目標や夢を達成するために努力することは大変なことだと思っていました。けれど全力で練習し、全力で意見をぶつけ合う、そんな石神井中学校の生徒の姿が私の常識を変えてくれました。私のように、今回の合唱コンクールに心を動かされた人はたくさんいるのではないのでしょうか。

後輩の皆さん、このように全力で取り組むことは自分自身を成長させ、周りの人を感動させる力があります。皆さんにはまだチャンスがあります。この経験を活かし、「最高の合唱コンクールだった」と笑って言えるように頑張ってください。

石中の合唱コンクール

文化行事委員会 委員長

「石神井中学校はどんな中学校ですか？」

高校入試の面接でもされるこの質問、今の生徒はどう答えるのだろう。

明るい、自主、自律、生徒中心、挨拶、行事が盛ん……去年受け持った卒業生たちはそのように答えていた。私が思うに、彼らの挙げる石神井中学校の良さは、自主と伝統に支えられる合唱コンクールという行事で最も花開く。はじめに言ってしまうと、今年の合唱コンクールは大成功であった。

合唱コンクールは毎年7月、実行委員の発足とともに準備が始まる。実行委員会の顔合わせの日、私は違和感を覚えた。文化行事の実行委員らしい落ち着いた雰囲気の中3年生に対して、1・2年生がやたらに元気なのである。「君たち、体育祭実行委員と間違えていませんか？」と問いたくなるメンバーにはじめは不安を隠せなかったのだが、この1・2年生と3年生のミスマッチが大きな成功を生み出した。

本校の合唱コンでは、曲の選択からパート分け、並び順、練習の計画まですべて生徒が決めて実行する。担任の主な仕事は我慢である。歌ってほしい曲が選ばれなくても我慢、練習が思うように進まなくても我慢。なるべく口出しせずに生徒に任せる。(これが一番難しいのだが……)

というわけで実行委員を中心とした生徒が自主的にクラスを動かしていくのだが、1・2年生は慣れていない。そのための実行委員会で、3年生が縦割りのクラスごとに1・2年生にそのノウハウを伝える。こうして合唱コンクールの伝統が下に受け継がれていくというわけなのだが、今年の実行委員会はこの縦割り活動がとてウマかった。素直にグイグイ質問できる1年生、話し合いを明るく活発にする2年生、冷静に答えてまとめる3年生。それぞれの学年の個性が見事に噛み合い、縦割りでの団結が生まれる。武道場での合同練習が例年の2倍以上行われたのもその成果の一つである。1組も含め、すべてのクラスが合同練習を行ったのは、実は今年が初めてである。行事を通して、クラス・学年を超えた繋がりがいくつも生まれたのだ。

当日は、改修工事の関係で例年と会場を変えての開催となったが、生徒たちが動じることはなかった。それぞれのクラスの発表の素晴らしさは言うまでもなかったのだが、それ以上に驚いたのが互いをリスペクトし合う彼らの姿だ。互いの発表に真剣な眼差しを向け、それまでの努力を認め、称賛し合う姿が至るところで見られた。どのクラスも真剣に金賞を狙いつつ、互いを尊重して高め合う姿勢からは、学校全体としての一体感を感じることができた。4年ぶりに行われた吹奏楽部合奏の盛り上がりや全校合唱「夢の世界を」のハーモニーがそれを象徴していたといえるだろう。クラス、学年、縦割り、そして学校。歌の響きを通していくつもの繋がりを生んだこの合唱コンクールは、生徒スローガンにあるようにまさしく“最響”であった。

私はこの合唱コンクールという行事が大好きだ。個人の能力に関係なく、どれだけ学級の心を一つになれるかを問われる中で、生徒は様々な表情を見せる。楽しさ、戸惑い、葛藤、怒り、悔しさ……その一つ一つが、それぞれの“歌”に刻まれていき、合唱は大きな力を生む。大人の想像を優に超えて成長し、声を重ねる喜びを全身で体現する彼らの姿は美しい。

歌は時代とともに移り変わっていくものだ。しかしそれは、記憶と共にいつまでも人の心に残り続けるということでもある。多感な中学生30人、40人の心を歌で一つにすることは、決して簡単なことではない。多くの困難や苦勞を乗り越えた上での当日の合唱だ。このかけがえのない経験は、きっとこれから先も生徒たちに力を与えてくれるだろうし、彼らにとって美しい思い出となって残り続けるに違いない。願わくは彼らにはこの思い出を自信に変えてこの先も進み続けてほしい。この思い出を糧に更なる成長を遂げてほしい。人と人の繋がりが生む感動を彼らはもう知っているのだから。「さあ 出かけよう 思い出のあふれる 道を駆け抜け」

特別審査員 先生より

お手紙をいただきました。一部抜粋して紹介します。クラス合唱へのメッセージもいただき、先日、各クラスに伝えられました。

このたびの合唱コンクールでは石神井中学校の皆様とお一緒することができ大層幸せでした。いまだに私の心に、耳に、目にやきついていきます。中学校時代の3年間の成長のすばらしさ、すごさに感激し、感動を覚えました。演奏中の舞台上の姿も美しく「すてきな合唱をしよう」という心意気に満ちていましたね。すばらしく内容の濃いクラス紹介に続き、指揮者、ピアノ伴奏、合唱が一体となり、各クラスの高度な合唱にホール全体が緊張感と幸福感に満ちあふれました。最高でした。楽しかったです。この日のことを糧にますます音楽を楽しみ成長してください。ありがとうございました。